# 春休み少年少女名作鑑賞

少年時代から鑑賞眼を養い高めるということは、将来の人間形成に役立つものが多分にあります。そこで、春休みの期間に少年層でも理解できうるであろう心に残る映画を選んでここに特集をつくりました。ジュニア版フィルムセンターとして、御家族ともども御利用いただきたいと存じます。

1980年３月 **フィルムセンター**

○上映は午後３時と６時15分の２回。先着順にて定員239名に達し次第入場を締め切ります。(開館は12時30分。)
○ヒル・ヨル全館入れ替え制。

一般200円・学生140円・小人100円

| 期　　日 | ヒ　　　ル（３時） | ヨ　　　ル（６時15分） |
|---|---|---|
| ３月25日(火) | 路傍の石（124分） | 野菊の如き君なりき（83分） |
| 26日(水) | 次郎物語（122分） | 名もなく貧しく美しく（128分） |
| 27日(木) | イーハトーブの赤い屋根（108分） | 私は二歳（87分） |
| 28日(金) | 子育てごっこ（116分） | 私は泣かない（91分） |
| 29日(土) | 翼は心につけて（115分） | 家族（106分） |

### 路傍の石

**日活多摩川1938年作品**

原作＝山本有三　脚色＝荒牧芳郎　改編＝高重屋四郎　監督＝田坂具隆　考証＝森永健次郎　撮影＝伊佐山三郎、碧川道夫、永塚一栄　美術＝松山崇　音楽＝中川栄三　出演＝片山明彦(愛川吾一)、滝花久子(母おれん)、山本礼三郎(父庄吉)井染四郎(稲葉屋の泰吉)、吉田一子（母せい)、沢村貞子(久美田住江)、小杉勇(次[illegible])、江川宇礼雄(書生)、見明凡太郎([illegible])　９月21日封切

原作は1937年１月から半年にわたって朝日新聞に連載された山本有三の長編小説である。《真実一路》と同様山本の人道主義に貫かれた作品で、映画化に当っては母と離れて奉公に出た吾一少年が、母の死や周囲の冷たい態度にもめげず勉学に励む前半の姿が描かれている。

### 野菊の如き君なりき

**松竹大船1955年作品**

原作＝伊藤左千夫　脚色・監督＝木下恵介　撮影＝楠田浩之　美術＝伊藤熹朔　音楽＝木下忠司　出演＝有田紀子(民子)田中晋二(政夫)、笠智衆(老人)、杉村春子(政夫の母)、松本克平(船頭)、田村高広(政夫の兄)、小林トシ子(お増)、雪代敬子(民子の姉)、浦辺粂子(民子の祖母)山本和子(政夫の義姉)　11月29日封切

原作は歌人として有名な伊藤左千夫の小説《野菊の墓》である。映画化に当って木下監督は、数十年振りで生れ故郷を訪れた老人が、幼い頃に年上のイトコに淡い恋心を抱いた過ぎ去りし日々を回想形式で描き、その場面だけは白地の楕円形で[illegible]んで抒情性をいやが上にも盛りこ[illegible]下の代表作である。

### 次郎物語

**日活多摩川1941年作品**

原作＝下村湖人　脚色＝館岡謙之助　監督＝島耕二　撮影＝岡野薫　美術＝進藤誠吾　音楽＝服部正　出演＝杉幸彦（幼年期の次郎)、杉裕之(少年期の次郎)、井染四郎(次郎の父)、村田知栄子(次郎の母)、杉村春子(お浜)、北竜二(青木医師)轟夕起子(春子)、12月11日封切

下村湖人の同名小説の映画化で、旧家の次男として生れた次郎が里子に出され実母より里親になついて両親の苦労の種となるが、里親や周りのものにさとされて次第に親の愛情や大人の世界を知るようになる。

### 名もなく貧しく美しく

**東京映画1961年作品**

脚本・監督＝松山善三　撮影＝玉井正夫　美術＝中古智、狩野健　音楽＝林光　手話指導＝黄田貫之、三田尚子　出演＝高峰秀子(片山秋子)、小林桂樹(夫道夫)、原泉(秋子の母)、加山雄三(上野)、草笛光子(秋子の姉)、荒木道子(竜光寺みよ)根岸明美(娘浩子)　１月15日封切

松山善三が実在の人物に取材して脚本を書き、彼自ら監督した第一回作品である。ろう者のため夫の死後離縁された一女性が、同じろう者の男性と再婚し、家族の迫害や子供の死にもめげず精一杯生き、第二子の立派な成長にもかかわらずろう者のため交通事故で死に、夫も病死するまでの一夫婦の一生を描く。

### イーハトーブの赤い屋根

**分校日記プロ1978年作品**

原作＝三好京三　脚色＝朝間義隆、梶浦政男、斎藤貞郎、熊谷勲　監督＝熊谷勲撮影＝鈴木則男　美術＝田口昭男　音楽＝佐藤勝　出演＝上條恒彦(久慈健造)、丘みつ子(妻昭子)、寺尾聡(桜井喜八)、北林谷栄(老婆)、河原崎国太郎(校長)、山本学(医者)、倍賞千恵子(嘉村民子)、太宰久雄(仁右衛門)　２月25日封切

《子育てごっこ》で直木賞を受賞した三好京三の《分校日記》を映画化したもので、映画題名の〈イーハトーブ〉とは詩人宮沢賢治が理想郷に見たてた故郷の北上山脈の一地帯を意味するエスペラント語の造語である。岩手県の山奥にある小さな分校で辺地教育に情熱を傾ける教師夫婦と、生徒や村人との交流を描いた作品。生徒は現地の毛頭沢小学校生徒。

### 私は二歳

**大映東京1962年作品**

原作＝松田道雄　脚本＝和田夏十　監督＝市川崑　撮影＝小林節雄　美術＝千田隆　音楽＝芥川也寸志　アニメ＝横山隆一　声＝中村メイコ　出演＝山本富士子(母)、船越英二(父)、鈴木博雄(太郎)、浦辺粂子(祖母)、潮万太郎(洗濯屋)、岸田今日子(アツシの母)　11月18日封切

原作は開業医で評論家でもある松田道雄の随筆的幼児教育論であり、当時ベストセラーとなったものである。一貫した物語ではないこの原作を、市川監督夫人である和田夏十が、子供の眼から見た大人の世界や子育てのあわて振りをユーモラスに構成した。市川監督もまたこの脚本をアニメやナレーションの挿入でほほえましく描いた異色作。

### 子育てごっこ

**五月舎・俳優座映画放送1979年作品**

原作＝三好京三　脚本＝鈴木尚之　監督＝今井正　撮影＝原一民　美術＝横尾嘉良、阿部三郎　音楽＝池辺晋一郎　出演＝加藤剛(吉井信吉)、栗原小巻(妻容子)加藤嘉(作家星沢)、牛原千恵(星沢リカ)財津一郎(立野)、渡辺美佐子(リカの母)福田豊士(石出)　１月20日封切

昭和52年前期直木賞を受賞した三好京三の同名小説の映画化。原作は作者の実体験にもとづいたもので、岩手県の山村で辺地教育に長年取り組んでいる夫婦が放浪作家の孫のような娘が学校にもいかずわがまま一杯に育てられているのを見かね、根気よく暖かい愛情で彼女に接しついには夫婦の娘として迎えるまでを描いた作品。

### 私は泣かない

**日活1966年作品**

脚本＝吉田憲二、石森史郎　監督＝吉田憲二　撮影＝姫田真佐久　美術＝川原資三　音楽＝小杉太一郎　出演＝和泉雅子(早苗)、山内賢(三郎)、芦川いづみ（小沢先生)、市川久伸(幸男)、太田雅子（トシ)、北村和夫(幸男の父)、奈良岡朋子(幸男の母)、10月29日封切

吉田憲二監督の第一回作品。家庭の複雑な環境から非行に走った少女が、感化院の先生の援後のもとに身体障害児のいる家庭にひきとられた。この少年も両親の不和や自分の不幸で心がひねくれていたが、二人がいがみあいながら毎日の生活を共にしていくうち、互いに他人や自分に甘えず強く生きることを学んでいく姿をじっくり描いた作品。

### 翼は心につけて

**翼プロダクション1978年作品**

原作＝関根庄一　脚本＝寺島アキ子、堀川弘通　監督＝堀川弘通　撮影＝中尾駿一郎　美術＝坂口武玄　音楽＝三善晃出演＝フランキー堺(鈴木伸夫)、香川京子(妻佳代)、石田えり(娘亜里)、山口崇(朝倉医師)、佐々木愛(横山)、宇野重吉(校長)　10月14日封切

ガンのため右腕切断の大手術を受けながらも、わずか15年という短い一生を明るくたくましく生きた少女の姿を描いた関根の原作は、実話にもとづいたものであった。15歳を迎えた少女に突然病魔がおそい、不治の病にもかかわらず大手術をやるが、周りの人々に励まされて気を取り直し、高校入試に全力をつくして静かに逝った少女の姿を描く。

### 家　族

**松竹1970年作品**

原作・監督＝山田洋次　脚本＝山田洋次、宮崎晃　撮影＝高羽哲夫　美術＝佐藤公信　音楽＝佐藤勝　出演＝倍賞千恵子(風見民子)、井川比佐志(夫精一)、笠智衆(祖父源蔵)、木下剛志(長男剛)、瀬尾千亜紀(長女早苗)、前田吟、渥美清、ハナ肇、太宰久雄　10月24日封切

〈寅さん〉シリーズで最も忙しい監督の一人となった山田洋次が、長年あたためていた原案の映画化。九州に住む炭鉱を離職した一家が、北海道の根釧原野の開拓地に牧場を作るべく出発し、現地に辿りつくまでの日本列島縦断の旅の中で現代日本の世相を痛烈に描いたもの。3,000キロにわたるロケで1年がかりの大作となった。